

〔榮花世繼男〕父は紙子一官子は三官飴の荷賣

臺所船に二三十人前の膳組、貝焼に髭籠もりのさ、みなど、鹽山椒を手鹽皿に入れて、本膳においてまはる。

〔續山の井〕下秋菊

霜をける菊やさながら手鹽皿

百之

〔貞徳文集〕上從堺細物道具來由承候、中青磁膾皿、中加様之道具一色成共御媒介頼申候、

〔婚禮道具諸器形寸法書〕人銀之膾皿

長五寸五分餘、巾四寸七分、高九分半、内コウ臺高三分半、同差渡シ、下以

〔胸算用〕五つまりての夜市

扱又はは割物々々と、大事に懸けて出しけるは、南京の刺身皿四十枚其隔てに入れたる、京大坂

の名ある女郎の文売ガなり、

〔皇大神宮儀式帳〕菓子。佐。良。三具。已上宛太神宮司以祭祀用之、

〔止由氣宮儀式帳〕神嘗祭爲供奉、太神宮司宛奉雜用物、中菓子佐良三具

〔扶桑名處名物集〕山城宇治里

佳影

うもれ木に花のかたちの口取はうちの出茶やにあはぬ菓子皿

以地名爲名

〔渡世身持談義〕世盛の花嫁御寢覺の心安い貧家の祝言

祝言の夜も、朽木盆に盃載て、清水焼の皿に、飛魚引裂入て、ちろりに小半入れて、千代の結びの盃

事、下略

盤貫進

〔儀式〕三踐祚大嘗祭儀

河内國小盤十六口、片盤二十八口、高盤百二十口、中粥盤八口、下大盤五十六口、中尾張國、高